

「幸せを、支え合う。」

山崎 灯

今、私の目の前にあるのは、歴史の教科書。ほとんど毎日使っているせいか、ページの端がボロボロである。私は歴史が好きなので、教科書は隅々まで読む。ある時、ふと裏表紙を眺めた。その左下に、こう書いてあるのを見つけた。

『この教科書は、これからの日本を任う皆さんへの期待を込め、税金によって無償で支給されています。大切に使いましょう。』

ああ、そうか。そういえば教科書って税金によって作られているんだっけ。

今までこの二文に気が付かなかったのは、文字が小さいからだろうか。目立たないところに印刷されているからだろうか。関心がなかったからだと思う。税というものに対して。さすがに知ってはいたものの、私は税が自分のくらしにどう関わっているのか考えようとしてこなかった。

教科書だけではない。意識して周りを見渡すと、机、椅子、水道。みんな税でできている。意識したとたんに見え方は変わる。私の手の届くところに税の恩恵が溢れているのだ。

ここでひとつ疑問が生まれる。私たちの暮らしはどれくらい税と関わっているのだろうか。

調べてみると、警察署や消防署、市役所、公立病院、公園、ゴミ処理施設、道路や橋の整備、予防接種、健康診断、年金などの社会保障。学校では、校舎や机、椅子、黒板、理科の実験道具、プール、教科書…。とにかくたくさんあった。

こうしてみると、私たちの暮らしは税なくしては成り立たないことがよく分かる。むしろ、これほどまでに税の恩恵を受けているにも関わらずそれを意識していなかった今までの私が信じられないくらいだ。税があるから私たちは学校に行き、授業を受け、休み時間に友達とくだらない話で盛り上げられる。税があるから私たちは病院で治療を受け、明日から元気に笑える。そんな当たり前の幸せを税はたくさん作っているのだ。

ところで、私は税に暮らしを支えられているが、私自身も税を納めている。その税は、どこかで誰かの役に立っていると私は信じている。

私が納めた税が、誰かの支えになる。

誰かが納めた税が、私の支えになる。

私たちは納税という行為によって何かの支えの一部となり社会に貢献している。そう思うと私は税を納めることにやりがいを感じる。税に対してよく思わない人もいるかもしれない。しかし、私たちは税で支え、支えられている。事実、税がなくなって生きていける人はいないだろう。

今日、この瞬間も私たちは税を通して互いの幸せを支えている。それって素敵な当たり前じゃないか。これから私は温かい心で納税できそうだ。

そんなことを考えながら、私は今日も教科書を開くのである。